

言葉の使い方と思うこと

副校長 佐橋 正智

私自身、本校では2年目を迎えましたが、職員室の場所も変わり、初心に戻り児童生徒の皆さんをお迎えすることができました。児童生徒の皆さんにとっても、新たな気持ちで登校したのではないのでしょうか？登校時の児童生徒の皆さんの笑顔と元気なあいさつ、そして「今日は何するのかな？」という期待と少しの不安、それに応えるかのように期待いっぱいになれるような教職員の優しいかかわり、朝の一場面の中にもとても大切な要素が凝縮されています。その風景が、『学校の当たり前』なのだと思います。

学校では、いくつかの学校ならではの言葉があります。保護者の皆さんも、小さい頃から「廊下を走るな」と言われませんでしたか？「授業中は（先生に言わないで）勝手にトイレに行ってはいけません」とか「席につかないといつまでも帰りの会ができませんよ」等々。実は、一見ありがちなこの言葉かけが、理解しにくい子どもたちも多くいるのです。廊下を走るなとはどういう状態像なのでしょう？大部分の人は自らの経験と道徳的な観念から「廊下は歩く」と同一に理解しますが、そうではない子もたくさんいます。やはり、「廊下は歩きましょう(歩きなさい)」の方が、よっぽど分かりやすい言葉です。先生に言わないで勝手にトイレに行ってはいけませんという言葉は、否定を繰り返すより『先生に言ってからトイレへ行きましょう』の方が分かりやすいし、「席についたら帰りの会を始めますよ」の方が具体的です。本校の玄関でも、「早く靴履かないといつまでも帰れないよ」と聞くことがありました。ほんのちょっとしたことなのですが、「靴履いたら帰ろうね」と言う方が伝わるのではないかな？と思います。言葉は生き物で、ニュアンスの中から意味をくみ取ることも多くありますが、何を伝えたいか、何を理解してもらいたいのかを、しっかり整理して言葉を選ぶ必要もあると考えています。

学校は、多くのことを教える場であり、児童生徒から多くのことを学ぶ場でもあります。